

以下略
!!!

江口夏実

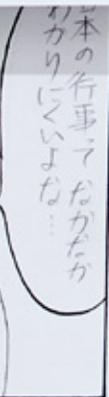
JOSHIBI no.181



实用新家申請中

発行元：角川書店
発行所：角川大塚店
03-3982-1421

14



ブレない自分を、
大切に。

会社員生活を経て、2011年にデビュー、2014年には作品がアニメ化——。「ブレない自分を大切に」と語る江口夏実さんは、現在『鬼灯の冷徹』で人気急上昇。作品の急騰ぶりとは正反対にどこかクールで、安易にはマスに迎合しない氏の強さに迫ります。

Photo 福岡秀敏 Text 立古和智

とにかく描くことが好きな子どもでした。買い物に出かけたパンダが、カップに足を引っ張られ、川に落とされる。そんなマンガを6歳くらいから描いていましたね。ただしマンガを仕事にしようとは長らく思いませんでした。実現する方法もわからなかったですし、親からも反対されると思い込んでいたのです。教員だった両親からは厳しく育てられたほうだと思います。高校までは親の言うままに進学校に進みました。そして初めて自分の意志で決めた進路が美大だったのです。女子美では実技が多くて、毎日が楽しかったですね。はじめて学校が好きになりました。高校までは周囲に美術に関心のある友人は皆無で、私は変わり者扱いされてきましたが、女子美では考え方を共有できる仲間にも恵まれました。これは美大ならではです。2年次からは念願の一人暮らしもスタート。放課後を自分の好きに過ごす自由を得たのは、あれが初めて。本当に最高の思い出です。卒業後はデザイン関係の仕事など、何かを創る仕事に就きたかったのですが残念なことに縁がなかったため、縁のあった小売・流通系の会社へ。この



会社での毎日が猛烈に忙しかったのです。自分では「仕事をしながらマンガを描き続けよう」と思っていたのに、そんな余裕はほとんどなく、すっかり疲弊しました。そんな生活には限界を感じて、8カ月ほどでピリオドを打ちます。

そこから2010年に「ちばてつや賞」を受賞してデビューするまでは、作品を描いては投稿するの繰り返しでした。いろんな編集部に片っ端から送りました。さすがに無職のまま何もやらずにいるわけにはいきません。かといって会社員には戻りたくなかったし、マンガで食える自信があったわけではありませんが「これしかない」という心境でした。とりあえず投稿して小さな

変えてほしい」などと言われるんです。

たしかに媒体によって方針がありまじ、作家自身では客観的に見れない部分があるので、耳を貸すべきですが、創り手としてブレてはならない部分もあると思っています。そもそも、みんなが万人受けを狙う必要もありません。実際、私が愛読してきたマンガも王道ものというよりは「ゲゲゲの鬼太郎」のように読み手を選ぶ作品でした。その影響なのか、自分の作品でも「一定数に好かれればいい」と考えていました。それに媒体に合わないなら、合う媒体を探せばいい。周囲からの言葉を何でもかんでも真に受けていたら、そのうち「スポーツものを書いて」「恋愛ものを書いて」と言われかねません。このふたつは経験も少ない苦手分野ですので、私には無理です(笑)。そう考えると続ける上で大切なのはやっぱり経験ですね。女子美での楽しい思い出。会社員として過ごした大変な日々。これらはすべて作品に生きています。作品に登場するキャラクターも然りです。誇張する、性別を変えるといったアレンジはしていますが、これまでに知り合った人たちのエッセンスを散りばめてきました。創るものには、これまでに触れてきたものが必ず滲み出ます。実際に足を運んで目にした風景を描くのと、何かで目にした絵を下敷きにして描いた風景とでは、絵が発する匂いも異なります。風景に限らず動物だって同じです。なるべく直に触れて、大きさや匂いまで知った上で描きたい。…なんて偉そうに言ってますが、私も決して絵がうまいわけではありません。この癖のあるタッチにコンプレックスを抱いてきました。批判の声があることも重々承知です。自認していても下手だと言われるとやっぱりヘコみます。だからといって批判を無視するのも良くないし、気にし過ぎるのも良くない。自惚れを避けるためにも、両方の意見に耳を澄ませたい。その上でブレない自分を大切にしながら、今後も描き続けていきたいですね。

賞でも獲れば、親からも「就職しろ」と怒られずに挑戦してられる。そんな考えでしたね。そう思っていると投稿先からは、いくつかの小さな賞を頂けました。その流れで出版社の方々とやりとりをはじめると、いろんな雑誌で「こういう設定にしてほしい」「こ



江口夏実(えぐち・なつみ)

1983年東京都生まれ。2007年芸術学部絵画科日本画専攻卒。2010年『非日常的な何気ない話』で第57回ちばてつや賞佳作を受賞。その中の一編「鬼」に登場したキャラクター、鬼灯を主人公とした『地獄の沙汰とあれやこれ』が週刊モーニング誌に掲載され、2010年にデビュー。その後、作品タイトルを『鬼灯の冷徹』と改め、現在にわたって連載中。2014年にはアニメ化も実現した。

プロダクトデザイン専攻6名 「意匠登録出願支援対象者」に選出

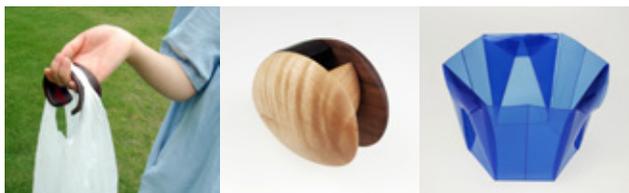
1月26日、芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻の学生6名が、平成26年度デザインパテントコンテスト(主催:文部科学省、特許庁、日本弁理士会、独立行政法人工業所有権情報研修館)の意匠登録出願支援対象者(総応募数274件/大学部門)応募97件中16件)として選考、表彰されました。今後は弁理士による出願のアドバイスを受けながら、意匠登録の出願を行い、意匠権の取得を目指していきます。なお、弁理士のアドバイスや、意匠登録出願料・意匠登録料(第1年分)の全額を主催者が負担する特典があります。また、本学はこの2年間で計9名の表彰者を輩出していること等により、大学全体で知的財産マ

インドの育成や知的財産権制度理解の向上に積極的に取り組んでいる姿勢が評価され、文部科学省科学技術・学術政策局長賞を受賞しました。

表彰式第二部では、25年度日本弁理士会会長賞を受賞した松本華那さん(同専攻3年)が意匠権取得者を代表し、出願までの苦労話とともに、「自分が良いと思う物を作れば、他人に伝わる」とプレゼンテーションを行いました。なお、昨年度表彰された3名は既に意匠権を取得できたため、物品や物品の部分における形状・模様・色彩に関するデザインが公に認められ、登録日より20年間、類似のデザインから権利保護されることとなります。



〔出願支援対象者〕(写真 左から)
土屋和子さん/事務用クリップ「ひらまる」 森田茜さん/手動掃除機「Colon」
園田星絵さん/ Kanpai touch! 小林明日美さん/絵の具
山田亜樹さん/調理器具スタンド「perax」
福岡蘭さん/クレヨン専用グリップ「iroron(いろいろん)」
松本華那さん/昨年度出願支援対象者



※昨年度出願支援対象者で意匠登録がされた3名
(写真 右)松本華那さん/Orizara /意匠登録第 1514232号
組み立て式食器で、使用しない際はシート状に戻すことができ、持ち運びや運搬に便利です。
(写真 中央)早弓奈々さん/マスクングテープカッター /意匠登録第 1514519号
テープを親指の爪でカットするときに同じような動作で、無理な力を加えることなく(テープをカットでき、また刃が内側に向いているため、指が直接刃に接触することが少なく、安全に使用できます。
(写真 左)及川美樹さん/ハングリップ /意匠登録第 1517182号
レジ袋や紙袋等、鞆など手荷物保持具で、凹みに掛けることで、力の弱い女性でも無理なく使用できます。アクセサリーとしても身につけることができます。

サイエンスをわかりやすく、視覚的に伝える 水産総合研究センターと包括連携協定を締結

2月5日、本学と独立行政法人水産総合研究センターは、相互の研究開発能力および人材を活用した総合力を発揮するため包括的な連携協定を締結しました。調印式は同日、本学杉並キャンパス110周年記念ホールにおいて執り行われ、同法人より宮原正典理事長、本学から大村智理事長が協定書に署名を行いました。水産総合研究センターは、水産資源の管理や増養殖、海洋環境モニタリング等に関する基礎から応用、そして実証まで一貫して研究開発を行っている日本最大の研究所。各地の研究機関や大学と連携しながら研究開発を進めていますが、専門的な分野でもあることから、その取組や研究成果を広く、そしてわかりやすく伝えることに課題がありました。一方本学は、以前より宮原理事長に水産資源や海の素晴らしさに関する特別講演を開いていただいております。芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域では2012年長崎県で開催された「まぐる祭り」、2015年高知県で開催された「かつおフォーラム」への協力など、海洋生物をテーマとしたコンテンツ制作を行ってきました。このつながりを元に、水産総合研究センターの取組や研究成果を、水産資源のヴィジュアル化などで女子美生の視点からわかりやすく親しみやすい内容へと昇華。今回の協定締結により、専門家の科学的な知見から高精度のコンテンツ制作がより充実されると考え、海洋の専門家と一般の方々の架け橋になるような「ヴィジュアルサイエンスコミュニケーション」を育成していくことを目標としています。

女子美スタイル2014 東京都美術館にて華やかに開催！ 第9回テーマは【ネコとカフェオレとリボンとワタシ】



3月3日から8日にわたり、上野の東京都美術館にて「女子美スタイル2014【ネコとカフェオレとリボンとワタシ】」を開催しました。今回で9回目を迎える「女子美スタイル」。大学院、芸術学部、短期大学の全卒業・修了制作の中から選ばれた作品と、本学付属高等学校の卒業制作の全作品が展示され、例年以上に迫力のある展覧会となりました。

2014年度の女子美スタイルのテーマ【ネコとカフェオレとリボンとワタシ】。今回のテーマは2013年度の『超少女』に続きいろいろな意味が込められたものになっています。「好きなものを原動力にしていろんなアクションを起こす。そしてそのアクションによって、好きなものを最終的に（作品へ）昇華できない。それが女子美生の強みではないでしょうか」。テーマにこめられたコンセプトについて話すのは芸術学部アートデザイン表現学科アートプロデュース表現領域日沼禎子准教授。ディレクターとして「好きなものには時々裏切られたりもします。だからこそ追い求め、それを磨いて

こそ自分の追究する（美へ、へ心の表現へ）になっていくのではないのでしょうか」とコメント。手のひらよりも小さな作品から見上げるような大きな作品まで、観る人が新しいおもしろさを発見できるかどうかをポイントに選出された女子美らしい約150点の作品は会場を華やかに彩りました。女子美スタイルのメインイベント「Joshibi Rainbow Award」は6日に開催。Rainbowにちなんだロゼットを胸につけた7名の審査員が会場を巡り、興味のある作品の前で作者の女子美生に質問し解説を聞くなどして、全展示作品からAward作品を選出しました。芸術学部アートデザイン表現学科

アートプロデュース表現領域の学生たちの企画・運営による「Joshibi Rainbow Award」授賞式では、受賞者が発表されるたびに歓声と拍手がおこり会場は大盛り上がり。審査員の方々もその熱気に応えるかのように作品の選出理由を熱弁、女子美生の今後の活躍に期待を述べられました。今回受賞者にはRainbow Awardにちなんだ虹色のアイシングクッキーの表彰楯が贈呈され、今まで見たことのない素敵な甘い表彰楯に会場の賑わいは頂点に。作品展示中の真剣な表情から一転、笑顔あふれる女子美生たちの姿がとても印象的でした。



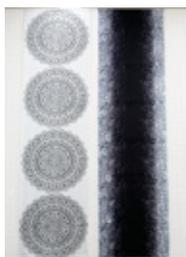
Red Prize
池内 務賞
(株式会社レントゲンヴェルケ代表取締役)
『Mavourneen』
澤田 優紀穂
芸術学部 アート・デザイン表現学科
アートプロデュース表現領域



Orange Prize
塩見有子賞
(Arts Initiative Tokyoディレクター)
『本』
竹石 ちか
短期大学部 造形学科 デザインコース



Yellow Prize
下川一哉賞
(NPOメイド・イン・ジャパン・プロジェクト代表理事)
『8484』
高田 実希
芸術学部 デザイン・工芸学科
プロダクトデザイン専攻



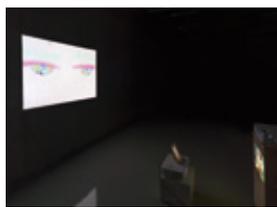
Green Prize
ミック・コイヴマー賞
(駐日フィンランド大使館 報道・文化担当参事官)
『虫たちのあそび』
井上 寧
芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻



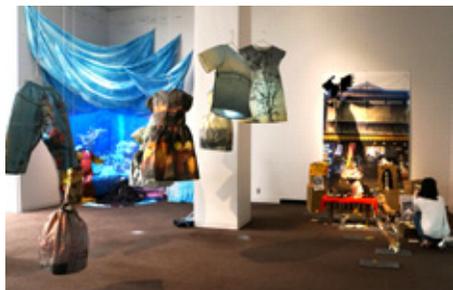
Blue Prize
森 司賞
(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化発信プロジェクト室 東京アートポイント計画ディレクター/
『Art Support Tohoku-Tokyo (東京都による芸術文化を活用する被災地支援事業)』ディレクター)
『return 奈良新薬師寺編』
龍道 真友子
芸術学部 アート・デザイン表現学科
アートプロデュース表現領域



Indigo Prize
横山勝樹賞
(建築家/女子美術大学学長)
『UNMANNED III』
竹内 七月姫
大学院美術研究科 修士課程
美術専攻 立体芸術研究領域

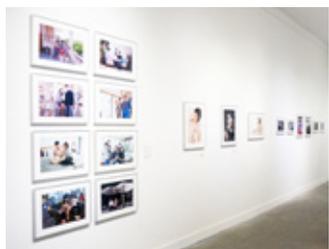


Violet Prize
日沼禎子賞
(『ARTIZAN』プログラムディレクター/アートNPOリンク理事/女子美術大学准教授)
『今、みえること』
戸田 泰子
芸術学部 美術学科 洋画専攻





2015年の始まりは、中国伝媒大学と本学の学生による交流写真展。元より中国伝媒大学と本学は、2011年より参加している合同写真展〇(まる)展より継続的に交流しており、この度は満を持して Joshibi Art Gallery で2校での展覧会を開催する運びとなりました。中国伝媒大学としては自国での展覧会開催のため、指導教員の于然先生のほか学生からも北京から上海に駆け付け、賑やかな展覧会となりました。



Joshibi Art Gallery

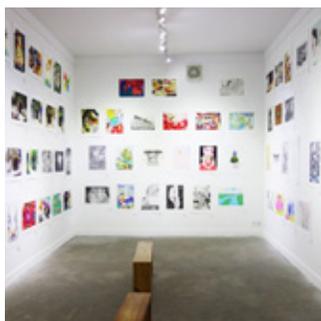
展覧会報告

— 光・夢・故郷 —

中国伝媒大学×女子美術大学
学生交流写真展

2015年1月17日[土]～2月8日[日]

本学学生と中国伝媒大学学生との交流写真展。本学芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域川口吾妻教授監修



2014年夏に決定した日本・韓国・中国の高校生による作品のコンペティション「アジア高校生アートアワード2014」の受賞作品が Joshibi Art Gallery に展示されました。このコンペティションは未来のアジア発の若手芸術家を育成し、国際芸術交流を促進することを目的として、本学(日本)、誠信女子大学校(韓国)、広州美術学院(中国)の共催によるもの。多くの作品の中から大賞・金賞・銀賞・銅賞・特別賞・入選を受賞した作品が、各校ならびに Joshibi Art Gallery を巡回しました。

アジア高校生アートアワード 2014入賞作品展

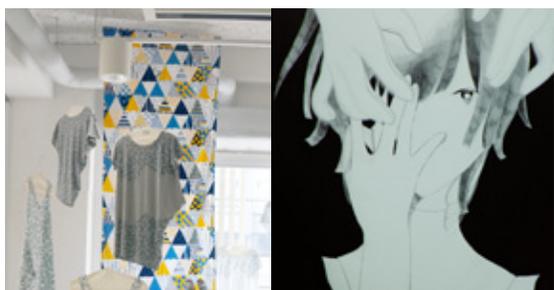
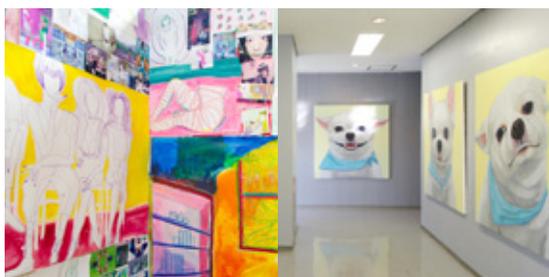
2015年2月14日[土]～3月1日[日]

日本・韓国・中国の高校生作品によるコンペティションの受賞作品巡回展。女子美術大学、誠信女子大学校(韓国)、広州美術学院(中国)の共催。

上海 Love Story 「ONE SUN ONE EARTH in Shanghai - 写真家・伊島薫」展

2015年3月7日[土]～3月29日[日]

写真家・伊島薫氏による滞在制作型展示。2006年から続く「ONE SUN ONE EARTH」の上海版を Joshibi Art Gallery で開催。



2014年度卒業制作展／ 修了制作展、開催

3月14日から15日の2日間、相模原と杉並の両キャンパスで芸術学部・短期大学の2014年度卒業制作展／修了制作展が開催されました。開催期間最終日には、芸術表象専攻優秀卒業研究および大学院修士論文発表会が相模原キャンパスで開催。学生生活の集大成である卒業制作や、同期間に開催している大学院の修了制作を鑑賞するため、多くの来場者がキャンパスを訪れました。

竹中 明子

短期大学部 造形学科
デザインコース 特任准教授



杉並校舎の正門をくぐると、大きな桜の木が長い年月の間、どんな日も変わらず私たちを迎えてくれます。桜の木は地球からのエネルギーを吸収しながら、燃えるような花を咲かせるために粛々とその日を待って毎日をご過ごしているのでしょう。「創造する生命の樹」である皆さんにとって、この女子美での日々が「美しい感性が育つ豊かな土壌」であることを今日もこの桜の木の下のくぐりながら思うのです。

1964年千葉県生まれ。女子美術短期大学テキスタイル教室卒業。2002年より同短大非常勤講師。第42回三軌展新人賞受賞、日本テキスタイル協会会員、テキスタイルアーティストとして毎年、個展等で作品を発表。

大崎 綾子

芸術学部 デザイン・工芸学科
工芸専攻 特任助教



現在、日本国内で日本刺繍を専門的に学べる大学は女子美だけになっています。学校創設期から続く刺繍の伝統技術の継承と、女子美らしい刺繍のデザインをいかに表現していくかを考えていきたいと思っています。大学時代は自分と向き合う時間をたっぷり使える大切な時間です。学生の皆さんが有意義な時間を過ごせるよう頑張っております。どうぞよろしくお願いたします。

1967年東京生まれ。女子美術大学大学院美術研究科美術専攻工芸研究領域(刺繍)修了。日本色彩学会、服飾文化学会、文化財保存修復学会、会員。

渡部 直也

芸術学部 アート・デザイン表現学科
ファッションテキスタイル表現領域 特任助教



アート、デザインに関わらず何か物を作る時、人の感情を動かすことが最終的な目標となるのだと思っています。自分自身だけのためだけで作り続けられません。自分以外の誰かのためにそれを作り、その相手を通して自分に喜びが返ってきます。作品を通じて伝えたい想いがあれば、それを表現するために自然と技術も向上します。まずはどういった世界を見せたいのか、作っていききたいのかを様々な影響を受けつつ構築してください。常に新しい感覚で突き進んで欲しいと思います。

1982年北海道生まれ。多摩美術大学芸術学部生産デザイン学科テキスタイル専攻卒業。MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2007にて柏木博賞を受賞。

内田 沙希

短期大学部 造形学科
共通科目 特任助教



みなさんには、この世界がどのように見えていますか。芸術による表現には、この世界に対する認識が表れていると思います。また、教育には、学習者の認識を広げたり深めたりする働きがあると考えます。みなさんに芸術について教えていただきながら、学習者の認識を広げたり深めたりすることは、どういうことなのかを一緒に考えていきたいと思っています。教育について学ぶことが、みなさんのより豊かな表現の一助となれば嬉しいです。

1986年神奈川県生まれ。筑波大学第二学群人間学類卒業。筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程教育学専攻修了。

学校法人女子美術大学

理事長 大村 智



本学は、115年前、女性の社会進出がままならない時代に、女性に美術教育を施すことで専門家として積極的に社会に参画できる女性を養成するという、高邁な精神の下、設立されました。人生で最も尊いことは、個性と創造性をもって、いかに社会に貢献するかであると思います。このような気概を持つことで、人生が一層の輝きを増すこととなります。これには、皆様の先輩達の生き方が、この上ない手本となります。学生

生活の中で創立者横井玉子、佐藤志津両先生をはじめ先人達が何を求め、いかに生き、どのように創造性豊かな世界を切り開いてこれたかを学んでいたきたいと思います。そして、皆様には本学において美術に係わる知識や技術を学ぶと共に、しっかりとした人生観と社会観のもとで、正しい判断を導き出すことができるよう、日頃の研鑽を心掛けていただきたいと思います。

学長 横山 勝樹



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私たち「女子美」は、新しい仲間となったみなさんを心から歓迎しています。女子美術大学・女子美術大学短期大学部の建学の精神は、「芸術による女性の自立」、「女性の社会的地位の向上」、「専門の技術家・美術教師の養成」です。女子美の先生たちは、この言葉の意味を考えながら、美術とデザイン、そして関連する学問の世界で日々制作と研究を実践している人々です。みなさんの先輩たちも、先生たちとともに115年間こ

の精神を受け継いできました。みなさんもこの言葉の意味をぜひ心に留めて、これからの大学生活を送ってください。21世紀は、地球環境・世界平和の問題など、難しい問題が山積している時代です。それゆえに日々の制作と研究を通して、女子美の建学の精神を世界に発信していくことが、私たち、つまりみなさんの使命です。女子美でたくさんの仲間を見つけてください。そしてみなさんの活躍に期待をしています。

退職された先生方

芸術学部	美術学科	洋画専攻	教授	上葛明広 (2015年5月31日付)	短期大学部	造形学科	共通科目	教授	佐藤善一
芸術学部	デザイン・工芸学科	工芸専攻	教授	岡田宣世					



短期大学部部長
小林 信恵



芸術学部長
橋本 弘安



大学院美術研究科長
上葛 明広

吉村作治早稲田大学名誉教授、 古代エジプト文明の魅力を語る

2014年12月、芸術学部アート・デザイン表現学科主催の公開講座「宇宙・人間・アート」で、エジプト考古学者であり早稲田大学名誉教授の吉村作治先生による特別講演「古代エジプト文明の魅力」が杉並キャンパスにて行われました。講演では、発掘現場ならではのエピソードや貴重な発掘資料の紹介、夢を叶える秘訣など幅広く展開。自分の好きなものを徹底的に追求して生きていくために「夢は捨てちゃいけない、思い続けてほしい。思い続ければ夢は叶う」とお話しになりました。第一線にて発掘調査を長期にわたって取り組む意欲的な姿は、学生たちにとって大いに刺激となり、勇気づけられるものとなりました。



02 | 芸術表象専攻4年生、 卒業研究発表会を開催

芸術学部美術学科芸術表象専攻では、2015年1月、相模原キャンパスにて「卒業研究発表会」を開催しました。4年間の集大成を学生一人ひとりが自分なりにまとめ、ひとり10分間で発表。発表会の終わりには同専攻北澤憲昭教授・杉田教授より全体を通してのコメントがありました。この発表会には他専攻の学生や大学院生、教職員など数名が聴講。卒業制作展を控える学生にとって、まずは自分の研究を見詰める機会になったのではないのでしょうか。

世界的フォトグラファー伊島薫氏 大学での初講演を女子美で開催

1980年代より作品制作を始め、現在も広告写真の第一人者として活躍されている伊島薫氏の講演会が、相模原キャンパスにて開催されました。伊島氏の代表作であり、国内外で高い評価を受けた「死体のある風景」シリーズのレクチャーが講演会の中心に。このシリーズは「もし自分が死ぬならば、どんな風に死にたいか」をテーマに出演者の希望を叶えつつ、着用している衣装を紹介するファッション写真として撮影を開始。木村佳乃、篠原涼子、小泉今日子ら著名な女優を次々に起用し、国内のみならずドイツ、イタリア、アメリカなどの欧米

各地で大きな反響を呼びました。講演会では伊島氏のドキュメンタリー映画も上映、フォトグラファー伊島薫氏のこれまでの取組みが凝縮された90分間でした。そして2013年から始まった新シリーズである「あなたは美しい」『You are Beautiful』の巨大な一作品を講演会の教室前にサブライズで準備し、「ありのままに写した正直な人体のヴィジュアル」を提示。女子美生に大きなインパクトを与える講演会となりました。フォトグラファー伊島薫氏の個展をJoshiki Art Gallery（中国・上海）にて開催いたしました。（詳細はP.参照）



伊島薫

1954年京都市生まれ。広告写真の第一人者として活躍する一方、80年代より作品制作を始め、木村佳乃などを起用した「死体のある風景」シリーズでは国内外で高い評価を受け、個展を数多く開催。特にドイツ、イギリス、イタリア、アメリカなど欧米各地では大きな反響を呼んだ。2012年には展覧会のメインビジュアルとしても起用され、その作品が大きな存在感を示した豊田市美術館「カルベ・ディエム」展は約2万人を動員。



NEWS & TOPICS



シルクスクリーンとミシン刺繍で日韓交流

1月下旬、相模原キャンパスに本学の学術交流協定校である、韓国 誠信女子大学校工芸科の学生のみなさんが教員の方々とともに研修にいらっしゃいました。1日目は芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻のアトリエや実習室の見学を中心にレクチャーを受講。つづく2日目は大判ハンカチにシルクスクリーンで植物柄をプリントし、そのプリント地にミシン刺繍で蝶模様を施すことを実習体験しました。誠信女子大学校のみなさんは、明度の高い色の顔料や絵の具について興味津々。透明感のあるグレーやブルーの発色を見て「この色を使った作品を作りたい」と熱望。実習では韓国人留学生が女子美生と誠信女子大生の交流をサポートしました。



大村智理事長「朝日賞」受賞

1929年に朝日新聞創刊50周年記念事業として創設された朝日賞。学術・芸術の分野で傑出した業績をあげ、日本の文化や社会のさらなる発展、向上に貢献した個人・団体に贈られています。さまざまな分野から注目を浴びるなか2014年度の受賞者として本学 大村智理事長が選ばれました。抗寄生虫薬の発見・開発と国際保健活動への貢献だけでなく、美術振興にも尽力する姿が高く評価され、このたびの受賞となりました。1月28日に日比谷の帝国ホテルで開催された贈呈式では、建築家・坂茂さん、脚本家・山田太一さん、熊本大教授・満屋裕明さんとともに表彰され、朝日新聞文化財団より正賞のブロンズ像と副賞500万円が贈られました。また、来賓の青柳正規文化庁長官からは、大村理事長にご懇篤なご祝辞と称賛の拍手が贈られ、大村理事長は周囲への感謝の気持ちや今後の目標も交えたスピーチをされました。

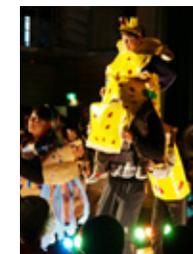


杉並区立杉並第四小学校にて、「いきものファッションショー」を開催

2014年12月杉並区立杉並第四小学校にて、芸術学部アート・デザイン表現学科季里先生、鈴木理恵子先生、山村美紀先生、日沼禎子先生が中心となり同学科有志学生50名を含む数十名が、小学校全学年対象のワークショップ「いきものファッションショー」を行いました。これは、人間以外の「いきもの」を1匹決め、形や色から創造した衣装を制作し、ファッションショーを行うことで、表現力や創造力を高めるための取り組みです。衣装の素材は米袋や色紙、セロハンなどさまざま。体育館で行われたファッションショーでは、一人ひとりがポーズを決め、ランウェイに見立てたマットの上を堂々とウォーキング。教員の方々も変身して参加され、3人で1体のキリンを表現するという大作もみられました。



<ワークショップ参加人数>
杉並区立杉並第四小学校の小学生216名
女子美生50名 女子美教職員15名



説得力のある提案スタイルで、来場者からも大好評 エコプロダクツ2014に女子美ブースを出展

世界共通の課題である「環境問題」。その予防と保全だけではなく「エネルギー」「住まい」「食」といったテーマに対してもさまざまな提案を行う日本最大級の展示会「エコプロダクツ2014」に、芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻から女子美ブースを出展しました。ブースでは「自分たちができることを、着実に形にしていこう」という主旨のもと、廃棄物を利用したインテリアグッズや、野菜の新しい販売方法

等を提案。試作品を効果的に配置したレイアウトは、わかりやすいと来場者の方々から好評。指導教員として出展に付き添った同専攻教授 松本博子先生も「提案したいプランが形になっているので、手にとって見ることができる。それが大変効果的でした。なんといっても普段は接点のない業種の方々と、交流をもてたことがいちばんの収穫だと思います」と手応えを話されていました。



ノーベル物理学賞受賞 小柴昌俊先生 絵画のなかのカミオカンデに感動



太陽から放出されるニュートリノ観測装置として、岐阜県 神岡鉱山地下深くにあったカミオカンデ。3000トンの超純水を蓄えたタンクと、壁面に設置した1000本もの光電子増倍管で形成された巨大装置です。そのカミオカンデの設計を指導・監督、自然発生のニュートリノ観測に成功した功績で2002年ノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊先生が、1月24日に女子美アートミュージアムにいらしていました。1月7日から2月2日まで開催された「平成26年度 退職教員記念展」には、芸術学部美術学科洋画専攻上葛明広教授がカミオカンデ訪問時の印象を描いた連作を出展。神岡鉱山のある飛騨市は上葛生の故郷であり、そのご縁から小柴先生とも親交を深められていたとのこと。作品出展を知った小柴先生より「ぜひ観てみたい」とのお話があり、今回の来訪となりました。



洋画専攻4年生による「女子美百景」 相模原キャンパスに登場

12月17日から19日までの3日間限定で、芸術学部美術学科洋画専攻の4年生が企画実施する学内卒業制作展、Pre-Exhibitionが開催されました。会場はいままで自分たちが制作の場としていた相模原キャンパスの1号館や8号館などのアトリエ。今回で3回目となる学生主体運営のこの企画、2014年は102名のさまざまな卒業制作が展覧されました。Pre-Exhibitionの運営は授業の課題のひとつでもあるため、同専攻4年生にとっては同級生と取り組む学生生活最後の企画です。ゲストによる講演会やオープニングレセプションも開催され、女子美視点にあふれる展覧会となりました。



インドネシア伝統工芸^{バティック}BATIKについての 特別講義を開催

2015年1月、学術交流協定を締結しているインドネシアジョグジャカルタ芸術大学 Institut Seni Indonesia Yogyakarta (ISI)より3名の先生が来校され、芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻の学生約20名を対象にBATIK (バティック) についての講義が行われました。講義をしてくださったのはアリフ先生、スミノ先生、スーカン先生。実作品を手に相模原キャンパスでインドネシアの工芸についてお話いただきました。鮮

やかな色彩表現と植物や動物などをモチーフとした模様が目をはひくBATIKはインドネシアの伝統的なろうけつ染めのことで、民族衣装や工芸品など幅広い表現領域で制作が行われています。講義では大学で行われている授業風景やファッションショー、教員や学生の作品などが紹介され、学生たちは熱心に聴講しました。2月には、同専攻田村俊明教授によるISIの学生作品についての講評が、ISIにて行われました。

いせひでこ客員教授 特別講義



いせひでこ

1949年北海道生まれ。1972年東京芸術大学美術学部デザイン科卒業。『マキちゃんのえにつき』(講談社)で野間児童文芸新人賞、宮沢賢治作品『水仙月の四日』(偕成社)では産経児童出版文化賞美術賞を受賞。その後も『1000の風 1000のチェロ』『にいさん』(偕成社)など多くの作品を発表。『ルリユールおじさん』(理論社)は講談社出版文化賞絵本賞を受賞し、世界各国の言語で翻訳出版されている。絵本の他にエッセイ『旅する絵描き パリからの手紙』(平凡社)など。

12月22日、杉並キャンパスにて芸術学部アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域客員教授いせひでこ先生の特別講義が開かれました。テーマは「創作の工房と記憶のひきだし」。前半では、いせひでこ先生の作品「ルリユールおじさん」の創作秘話をスライドで紹介。パリでの出会いからルリユールという職業の取材、ストーリーの誕生、完成後のサプライズなど、具体的なエピソードを交えて講演していただきました。後半は記憶をテーマに、子どもの感覚的記憶と、3.11震災の記憶について。いせひでこ先生が度々訪れスケッチしていた1本のクロマツ、そのたった1本の木にも、壮大なストーリーがある。便利な時代だからこそ、手を動かして描くことが大切なお話に、学生たちは大きく頷いていました。

13 | 平成26年度 卒業制作賞・優秀作品賞 等 受賞者

加藤成之記念賞

大学院	
畠山里枝	美術研究科修士課程芸術文化専攻色彩学研究領域

芸術学部	
小松美里	美術学科洋画専攻
渡邊 英	美術学科日本画専攻
巾崎知佳	美術学科立体アート専攻
齋藤桃花	美術学科芸術表象専攻
吉高百音	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
代市成美	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
崔 守然	デザイン・工芸学科環境デザイン専攻
井上 舞	デザイン・工芸学科工芸専攻
小川未央	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
池田桃子	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
清野優奈	アート・デザイン表現学科ファッション&身体表現領域
古市晶子	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

短期大学部	
栗田恵子	造形学科美術コース
増田茉里奈	専攻科造形専攻創造デザインコース

卒業制作賞

芸術学部	
漆畑 流	美術学科洋画専攻
小松美里	美術学科洋画専攻
廣畑聡美	美術学科洋画専攻
横山実実	美術学科日本画専攻
金 智園	美術学科立体アート専攻
白井くるみ	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
中川美香	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
増田薫子	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
富樫宝子	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
神山尚子	デザイン・工芸学科環境デザイン専攻
井上 舞	デザイン・工芸学科工芸専攻
石川彩乃	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
片山裕季子	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
清野優奈	アート・デザイン表現学科ファッション&身体表現領域
※共同制作にて受賞	
大西香澄	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
田所日菜子	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
古市晶子	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

卒業研究賞

芸術学部	
齋藤桃花	美術学科芸術表象専攻
久保田結衣	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

優秀研究賞

芸術学部	
金子知帆	美術学科芸術表象専攻
松田紗奈	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

福沢一郎賞

大学院	
坂内直美	美術研究科修士課程美術専攻洋画研究領域
中村花絵	美術研究科修士課程美術専攻版画研究領域

大久保婦久子賞

大学院	
中村美穂	美術研究科修士課程美術専攻版画研究領域
橋本亞里須	美術研究科修士課程美術専攻工芸研究領域
徐 倩文	美術研究科修士課程デザイン専攻視覚造形研究領域
工藤 遥	美術研究科修士課程デザイン専攻環境造形研究領域
梁 丞延	美術研究科修士課程芸術文化専攻美術史研究領域
飯島真理子	美術研究科修士課程芸術文化専攻芸術表象研究領域

女子美術大学美術館収蔵作品賞

大学院	
中村花絵	美術研究科修士課程美術専攻版画研究領域

優秀作品賞

芸術学部	
上野ゆめ子	美術学科洋画専攻
木村光里	美術学科洋画専攻
清水千恵里	美術学科洋画専攻
杉本麻菜美	美術学科洋画専攻
鈴木千尋	美術学科洋画専攻
山本芹奈	美術学科洋画専攻
池田真依子	美術学科日本画専攻
近藤ひかり	美術学科日本画専攻
中村風香	美術学科日本画専攻
新井夏菜	美術学科立体アート専攻
菅田比歩海	美術学科立体アート専攻
神谷美香	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
栗原 萌	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
品川陽香	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
中本ちはる	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
神田さ希	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
矢田沙和子	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
米村亜貴子	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
鄭 潤智	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
中川温喜	デザイン・工芸学科環境デザイン専攻
加藤佳苗	デザイン・工芸学科工芸専攻
廣瀬結香	デザイン・工芸学科工芸専攻
山中 優	デザイン・工芸学科工芸専攻
澤田夏海	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
齋藤千鶴	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
鳥居未乃莉	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
前嶋規子	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
安保茶々	アート・デザイン表現学科ファッション&身体表現領域
寺田くるみ	アート・デザイン表現学科ファッション&身体表現領域

※共同制作にて受賞	
秋山 葉	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
石川由貴	アート・デザイン表現学科メディア表現領域

女子美術大学美術館賞

大学院	
中村花絵	美術研究科修士課程美術専攻版画研究領域

芸術学部	
小松美里	美術学科洋画専攻
高屋 緑	美術学科日本画専攻
李 瑤	美術学科立体アート専攻
長谷川祐美	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
小林美菜	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
神山尚子	デザイン・工芸学科環境デザイン専攻
石瀬華子	デザイン・工芸学科工芸専攻
片山裕季子	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
清野優奈	アート・デザイン表現学科ファッション&身体表現領域
澤田優紀穂	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

短期大学部	
中村恵里花	専攻科造形専攻創造デザインコース

卒業制作賞

短期大学部 造形学科	
清水智香子	美術コース
樋口綾香	美術コース
佐藤恵美奈	デザインコース情報デザイン
宮林 芽	デザインコース情報デザイン
奥原聡美	デザインコース創造デザイン
鈴木聖乃	デザインコース創造デザイン
橋本小也香	デザインコース創造デザイン
古澤美夏子	デザインコース創造デザイン

優秀作品賞

短期大学部 専攻科 造形専攻	
関澤見公	美術コース
小泉彩夏	情報デザインコース
緒方智子	創造デザインコース
鶴田紗弓	創造デザインコース
増田茉里奈	創造デザインコース

短期大学部 造形学科	
小野澤久美	美術コース
加藤衣美	美術コース
足田 彩	美術コース
岩貝佳奈	デザインコース情報デザイン
篠崎志歩	デザインコース情報デザイン
鈴木尚子	デザインコース創造デザイン
美澤はるか	デザインコース創造デザイン
脇本沙紀	デザインコース創造デザイン

11 |

佐藤善一先生、最終講義 教育の原点を振り返る

2014年度で本学を退職された佐藤善一教授の最終講義が、1月13日杉並キャンパスにて行われました。佐藤先生は1994年より本学で教鞭をとられ、教職課程や共通科目の教授としてのみならず、常務理事として本学の経営にも携わっていただきました。最終講義のテーマは「教育方法 もう一つの視点」。大学進学が当たり前になって久しい昨今で、相対的貧困率が先進諸国の中でも上位の日本の課題について言及。佐藤先生の教育の原点でもあるバイパススクールの事例を交えながら、教育基本法の進展に期待を寄せていました。講義の終わりには学生のみならず、多くの教員、職員が駆けつけ花束を贈呈。いつでも優しい言葉で、学生・教職員と接していた先生の笑顔を忘れることはありません。佐藤善一先生、30年間ありがとうございました。



12 | アーティストになるための方法はあるのか？ 卒業生 蔵屋美香さん“五美大展”で講演

2月19日から3月1日まで、国立新美術館で開催された「平成26年度・第38回 東京五美術大学連合 卒業・修了制作展」。通称「五美大展」にて、講演会が開催されました。講演者のひとりとは文部科学省 教育課程課 教科調査官の東良雅人氏、講演テーマは「見つめること、感じ取る～子どもたちが自分の中で新しい価値をつくりだす創造活動～」。ご自身が教壇に立って感じた事から美術教育の現状、そして生徒との接し方について講演いただきました。そしてもうひとりとは東京国立近代美術館 美術課長の蔵屋美香さん。蔵屋さんは本学の卒業生で、2013年には第55回

ヴェネチア・ビエンナーレでキュレーションを手掛けた日本館が特別表彰を受けるなど世界を舞台に活躍中です。講演テーマは「学校を出て、この先わたしはどんなふうに関わりあっていくのだろうか」。会場は本学学生の他、他美大生や高校生で席は埋まり、熱心に聴き入っていました。「アーティストになるためのセオリーはないです。けれども、アーティストになるために必要なことはあります」。講演後の蔵屋さんには、感想を伝えるための来場者が列をなし講演会は成功に終わりました。

JAM

平成26年度
女子美術大学大学院修士課程修了制作作品展

3/11(水) ⇨ 3/20(金)
※女子美ガレリアニケと同時開催

平成26年度大学院美術研究科修士課程修了生の展覧会を開催。JAMでは洋画、版画、日本画、工芸、立体芸術、視覚造形、環境造形、芸術表象を専攻した学生の作品を展示しました。

女子美ガレリアニケ

女子美術大学AP(アートプロデュース表現領域)卒業制作(南島ゼミ+日沼ゼミ)
AP Theatre 2015 -AP劇場2015-

1/16(金) ⇨ 2/4(水)

アートプロデュース表現領域4年生による卒業制作展。アートの枠組みに囚われない自由な作品をご紹介します。

平成26年度 女子美術大学大学院
修士課程修了制作作品展

3/11(水) ⇨ 3/20(金) ※JAMと同時開催

平成26年度大学院美術研究科修士課程修了生の展覧会を開催。女子美ガレリアニケではメディアアート造形、ヒーリング造形、ファッション造形を専攻した学生の作品を展示しました。

歴史資料展示室

平成26年度収蔵資料展
収蔵資料にみる女子美の歩み

9/4(木) ⇨ 3/15(日)

収蔵資料により大学の歴史を紹介。本展では、昭和24年(1949)新制大学・女子美術大学発足時より1960年代までの資料を中心に展示しました。

展覧会予告

JAM

4/6(月) ⇨ 4/26(日)

新収蔵作品とパリ賞の作家たち展

女子美ガレリアニケ

4/6(月) ⇨ 5/13(水) ※4月19日(日) 特別開廊

Slaughterhouse-13

本学絵画学科出身で第17回岡本太郎現代芸術賞展 岡本敏子賞を受賞したサエボグをご紹介します。

歴史資料展示室

4/3(金) ⇨ 3/13(日)

休室日:火・日・祝日、8月5日~9月5日、10月30日、12月25日~1月6日
※7月19~20日、9月6日、10月25日、3月13日特別開室

平成27年度収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み
-女子美術大学付属高等学校・中学校創立100周年記念-

収蔵資料展示を通じて大学の110余年の歴史を紹介するとともに、一部コーナーにて創立100年を迎えた本学付属高等学校・中学校の関係資料を展示します。

5/22(金) ⇨ 6/17(水)

女子美術大学美術館収蔵記念
森田元子-真実の形象-展

本学美術館所蔵コレクションの中から、本学卒業生で元教授である洋画家・森田元子の新収蔵作品をご紹介します。

6/26(金) ⇨ 8/5(水) ※7月19日(日)7月20日(月・祝) 特別開廊

女子美術大学短期大学部 1年前期 学生作品展

本学短期大学部1年生の自由選択授業で制作された学生作品を展示します。

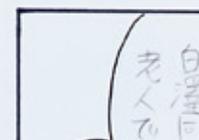
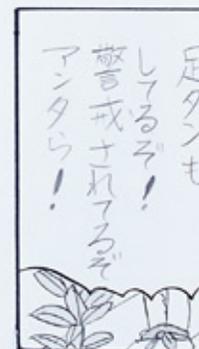
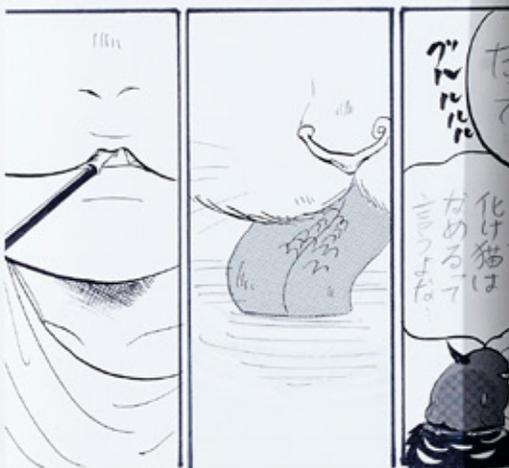


JAM 展覧会報告 PICK UP

2015/1/7(水) ⇨ 2/2(月)

今年度の「退職教員記念展」では、上葛明広先生(芸術学部美術学科洋画専攻教授、大学院美術研究科教授)と岡田宣世先生(芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻教授、大学院美術研究科教授)の作品を紹介しました。会場には、両先生の学生時代の作品から、近作に至るまでの多数の作品が展示され、多くのお客様で賑わいました。会期中にはお二人のギャラリートークも開催され、先生方を慕うたくさんの方の卒業生や在校生が来館されました。長年にわたり教鞭をとり、後進の育成に携わるとともに、作家として創作活動に取り組んできたお二人による華やかな展覧会となりました。

平成26年度
女子美術大学
退職教員記念展



女子美術大学広報誌

発行 学校法人女子美術大学
〒166-8538
東京都杉並区和田1-49-8
企画・編集 総務企画部広報グループ
監修担当 浅野正博・林規章
デザイン協力 株式会社 Kitchen Sink.
印刷 株式会社 ヒーローズ
発行日 2015年4月3日
©2015 学校法人女子美術大学

広報グループでは女子美のニュースを募集しています。お気軽に下記までお知らせください。また、本誌の定期購読をご希望の方はお送り先を広報グループまでご連絡ください。

TEL 042-778-6123
E-mail prs@venus.joshi.ac.jp
URL <http://www.joshi.ac.jp>